

## 附属中学校と附属幼稚園から学ぶこと～公開研究会を参観して～

落ち葉の季節になりました。上杉キャンパスも例外でなく、毎日の落ち葉掃除は欠かせません。早朝には警備をさせていただいている警備員の方々が正門周辺を清掃していただいています。また、小学校では6年生が先生方と一緒に奉仕作業に取り組んでくれています。このような上級生の姿を下級生が見て、自分たちもいつかこういう仕事をしようという心が育っていくのだと改めて感じています。

10月25日は附属中学校、31日は附属幼稚園で公開研究会が行われました。小学校の先生方も授業の合間を見て参観されていました。少しの時間を見つけて幼稚園や中学校へ行けるのも附属のよさですね。

このよさはもっと活用すべきだと思います。

例えば中学校。学習指導要領の各教科における小学校・中学校の目標は実はほとんど変わらないのです。私たち小学校の教員はもっと中学校をみて教科の系統性を調べるべきだし、中学校の先生方は、「教科の壁」を意識せず、お互いの教科を学び合い、小学校の学習内容を知るべきだと私は思います。出口は違っても同じ義務教育なのですから。



一方、幼稚園と小学校関係では、小学校は幼稚園での教育内容にもっと関心を払うべきで、今は多くの幼稚園で特色をだすために英語、音楽、体育など様々な早期教育を積極的に行っています。また集団生活を送る上で必要なことを教えられている場合が多いのも確かです。ただ気をつけなければならないのは「義務教育」ではないので全ての子どもがこのような「教育」を受けているわけではないということです。少なくとも附属幼稚園での教育活動にはもっと関心を払うべきです。附属幼稚園

での体力作りの取り組みは、結果として子どもたちの体力向上に結びつき成果を上げています。現に本校での1年生の体力測定でもそのことは証明されています。

小学校では朝、子どもたちが通学後運動着に着替えます。それは私たち教員も同じで、体を動かして心身を開放し、1日の教育活動をさわやかに行うためです。朝の遊び、そして朝の活動（現FT）は子どもたちにとって1日の学校生活の貴重な導入場面。それは私たちの日々の教育活動が「体も心もたくましくしなやかな子ども」を育てることを目指していることにあるからです。

**附属小学校で行っている教育活動には一つ一つ意味があります。**

時々「職員室のたまり」でその意味や原点について、コーヒーやお茶を飲みながら佐藤教頭先生、堀之内先生、俊宏先生と語り合ってみませんか。3人はとても語りたがっているようです。声を掛けられたら「！」と思って少しでよいので付き合ってください。なかなか聞けない「裏話」も聞けるチャンスかもしれません。

